第２ブロック　福祉・保健

金　圓景（Wonkyung　Kim）委員

明治学院大学　社会学部　社会福祉学科　准教授

上智大学文学部社会福祉学科卒業、上智大学大学院総合人間科学研究科社会福祉学専攻修了（社会福祉学修士）、日本福祉大学大学院福祉社会開発研究科社会福祉学専攻修了、博士（社会福祉学）。日本福祉大学地域ケア研究推進センター研究員、筑紫女学園大学を経て、2020 年より本学社会学部社会福祉学科准教授。

2025年7月17日(木)

MINATOビジョン・シンポジウム

共に生きるコミュニティづくりに向けて

ー「老い」を受け止めるまち港区を目指してー

福祉・保健

明治学院大学
社会学部　社会福祉学科
准教授　金　圓景（きむ・うぉんぎょん）

1

■自己紹介ー主な研究内容

家族

- セルフヘルプグループとしての「認知症の人と家族の会」の現状と課題
- 韓国における認知症高齢者をかかえる家族介護者へのグループ支援
- 認知症高齢者の家族会活動と地域福祉の新たな展開
- 認知症の家族支援システム構築に関する日韓比較研究

ケアラー

- 認知症ケアにおける意思決定支援プログラムの開発
- 生活者としての外国人介護人材が置かれている現状と課題・定着支援
- 複数の文化を生きる高齢者の現況と支援課題
- 認知症の人の意思決定支援のためのソーシャルワーク実践モデルの構築

当事者

- 認知症予防ではなく、認知症と共に生きるための啓発活動
- 認知症の人のシングル介護者から無子高齢者になる人々の実態と課題

2

■将来の課題

「認知症と共に生きる人」及び
「ケアする人
（家族、知人・友人、専門職など）」の
Well-beingとWell-dyingを目指して

当事者の声から学ぶ！

3

■将来の課題―8050世帯の事例を中心に

発見の難しさ＆複合的な課題
＆支援の分断

８０代の母と５０代の息子の２人暮らし

８０代の母の認知機能の低下が進み、
お金の管理が難しくなる

５０代の息子がお金を使い込むなど、
８０代の母がケアされない状況発生

地域包括支援センター＆行政などの介入
➡【虐待】と判定

世帯単位でかかわる
専門職や専門機関がいたら？
➡アウトリーチ型総合支援

社会福祉協議会の日常自立支援事業や
成年後見制度などにつながっていたら？
➡権利擁護支援

２人の今後の生活への思い、
望みが把握されていたら？
➡トータルケアサービス

支援（積極的な介入）開始！
・２人の今後の安心・安全な生活に
向け、「措置による分離」へ

4

■港区の2040年代に向けて

よく生き（Well-being）、よき死（Well-dying）を迎えられるまち

- 【包括的な医療・ケア体制】［事業者＆行政］
- これまでの生活を支える医療・ケア連携＆伴走型支援
- 福祉・介護人材の育成・確保＆働きやすい環境整備
- 医療・ケアの情報保障

「老い」を受け止めるまち

- 【当事者の参画と対話の場づくり】［事業者＆行政＆区民］
- さまざまな当事者が出会う・触れ合い、それぞれの「老い」を語り合う場づくり
- 違いを認め合う市民活動・多世代交流の場づくり

5

■2040年代に向けて必要なこと

尊厳の保障

- 「自分らしさ」を損なわない生活環境の整備
- 意思決定支援（ACPなど、プロセスを大事にする実践）

多様性を認め合い、受容する

- 当事者の参画と対話の場づくり
- さまざまな当事者が出会う・触れ合い、それぞれの「老い」を語り合う場づくり
- 違いを認め合う市民活動・多世代交流の場づくり

デジタル・ICTの活用

- SNSやバーチャル居場所などを使った孤立リスク軽減など
- 多職種・多機関連携におけるICT活用による業務の円滑化
- IoT（人感センサーなど）活用による高齢者の見守り・孤立防止

6

ご清聴ありがとうございました。